



❖ シンポジウム参加報告 ❖

国際シンポジウム

日本仏教の展開とその造形

“Medieval Japanese Buddhist Practices and Their Visual Art Expressions”

2019 年 1 月 18 日(金)、19 日(土)

ハーバード大学ライシャワー日本研究所

❖ 要 旨 ❖

報告者は、2019 年 1 月 18 日から 19 日の 2 日間にかけて、米国マサチューセッツ州に位置するハーバード大学ライシャワー日本研究所で開催された国際シンポジウム「日本仏教の展開とその造形」(International symposium “Medieval Japanese Buddhist Practices and Their Visual Art Expressions”)に通訳として参加した。以下、この国際シンポジウムがどのようなものであったか、スケジュール、参加者の内訳、各パネルの内容等をごく簡単に紹介する。



シンポジウムの様子

❖ 1, 概 要 ❖

ハーバード大学ライシャワー日本研究所と龍谷大学アジア仏教文化研究センター（グループ1ユニットA）の共催で、国際シンポジウム「日本仏教の展開とその造形」(International symposium “Medieval Japanese Buddhist Practices and Their Visual Art Expressions”) が、米国マサチューセッツ州に位置するハーバード大学ライシャワー日本研究所で開催された。本国際シンポジウムでは、ハーバード大学美術館（Harvard Art Museum）に保管されるセジウィック家蔵聖徳太子二才像の話題を中心に、日本仏教思想の展開とその造形面の深化に関して、多岐にわたる議論が展開された。

龍谷大学アジア仏教文化研究センター（BARC）および世界仏教文化研究センターからは、発表者として楠淳證氏（BARC センター長、龍谷大学文学部教授）、藤丸要氏（BARC 研究員、龍谷大学文学部教授）、道元徹心氏（BARC 研究員、龍谷大学理工学部教授）が、通訳として報告者が参加した。

以下、本国際シンポジウムがどういったものであったか簡単に紹介する。

❖ 2, 開催スケジュール ❖

第一に、国際シンポジウム「日本仏教の展開とその造形」の詳しいスケジュールを紹介しておくと、開催日程は2019年1月18日から19日の2日であった。まずは18日の午前と午後に、それぞれ第1パネルと第2パネルが実施され、続いて19日の午前と午後に、第3、第4、第5パネルが実施された（各パネルの詳細は後述）。

加えて、18日の第1パネルと第2パネルの間にあった午後休憩の時間を利用して、ハーバード大学美術館と同館所蔵のセジウィック家蔵聖徳太子二才像の見学会が開催された。

❖ 3, 使用言語 ❖

後述するように、本シンポジウムの参加者のバックグラウンドは、欧米、日本、中国の3地域にわたることから、英語と日本語の両方がシンポジウムの公用言語とされた。シンポジウム参加者は、原則これら2言語のいずれかを用いて研究発表、および質疑応答を行った。加えて、2言語を併用する研究者間のコミュニケーションを円滑に進めるため、主としてハーバード大学の阿部龍一氏と報告者が、通訳の任にあたった。

❖ 4, セミナーの参加者 ❖

国際シンポジウム「日本仏教の展開とその造形」の最終的な発表者は、計17名であった。先に名前を紹介した龍谷大学アジア仏教文化研究センターの楠氏、藤丸氏、道元氏を除く14名の発表者の名前と所属は下記の通りである。

吉田一彦（名古屋市立大学）
ポール・グローナー（ヴァージニア大学）
瀬谷愛（東京国立博物館）
ジュリア・クロス（ハーバード大学）
レイチェル・サンダース（ハーバード大学美術館）
アンジェラ・チャン（ハーバード大学美術館）
サミュエル・モース（アムハースト大学）
ファビオ・ランベッリ（カリフォルニア大学サンタ・バーバラ校）
佐藤もな（帝京高等看護学院）
上島享（京都大学）
シェリー・ファウラー（カンザス大学）
北澤菜月（奈良国立博物館）
アーロン・プロフィット（ニューヨーク州立大学アルバニー校）
イヴァン・シェア・イングラム（香港中文大学）

以上の17名の発表者で、計5組のパネルを編成した。さらに、各パネルのコメンテーターとして、下記の研究者が参加した。（内2名は当日欠席）

メリッサ・マコーミック（ハーバード大学）
ダニエル・ボレンガッサー（ハーバード大学）
ミカエル・バウワー（マッギル大学）
ジェシ・ルフェーブル（ハーバード大学）
ロバート・ローズ（大谷大学）

加えて総合討議の司会、および全体コメントとして、下記の研究者も参加した。

ユキオ・リピット（ハーバード大学）
ジェームズ・ロブソン（ハーバード大学）
阿部龍一（ハーバード大学）



❖ 5. 各 パ ネ ル の 概 要 ❖

本国際シンポジウムのプログラムは、計 5 つのパネル、ハーバード大学美術館見学、および総合討議の 3 部から構成される。第 1 から第 5 まで、各パネルの概要は次に述べる通りである。

18 日午前に開催された第 1 パネルのタイトルは、「聖徳太子信仰とその造形」(Prince Shōtoku Worship and Its Artistic Traditions) である。吉田一彦氏、ポール・グローナー氏、瀬谷愛氏が、中世日本の聖徳太子信仰とその美術、加えて太子信仰の流布に深く関わった叡尊と律宗教団をテーマに、研究発表を行った。

18 日午後に行われた第 2 パネルのタイトルは、「ハーバード美術館セジウィック家蔵聖徳太子二才像とその周辺」(Harvard Museum Sedgewick Shōtoku Taishi at Age Two and Its Surroundings) である。本パネルでは、ジュリア・クロス氏、レイチェル・サンダース氏、アンジェラ・チャン氏が、現在、ハーバード大学美術館に保管されるセジウィック家蔵聖徳太子二才像の物理的な構造、胎内納入品、および、それが制作された社会背景等をテーマに研究発表を行った。

19 日午前に行われた第 3 パネルのタイトルは、「南都北嶺の仏教」(Buddhism of Nara Buddhist Temples, Buddhism of Mount Hiei and Surrounding Tendai Temples) である。道元徹心氏、藤丸要氏、サミュエル・モース氏、楠淳證氏が、それぞれ千観『法華三宗相對抄』、凝然の教学思想、鎌倉期の仏師の活動、さらに貞慶の法然浄土教批判をテーマに研究発表を行った。

同じく 19 日午前の第 4 パネルのタイトルは、「日本密教の展開とその造形」(Development of Medieval Japanese Esoteric Buddhism and Its Art) である。ファビオ・ランベッリ氏、佐藤もな氏、上島享氏、シェリー・ファウラー氏が、それぞれ雅楽と密教、中世真言宗に独自の大日如来理解、現存する次第からみた密教修法の構成と特質、そして西国観音巡礼に深く関わる美術品をテーマに研究発表を行った。

19 日午後に行われた第 5 パネルのタイトルは、「密教と浄土教の交渉」(Interaction between Esoteric Buddhism and Pure Land Buddhism) である。北澤菜月氏、アーロン・プロフィット氏、イヴァン・シェア・イングラム氏が、中世日本に独自の浄土教と密教の交流をテーマに研究発表を行った。

また 19 日の午後、上述の 5 パネルが終わった後には、ユキオ・リピット氏とジェームズ・ロブソン氏を司会、阿部龍一氏を全体コメントとして総合討議が行われた。

~~~~~



控え室の様子



藤丸要氏の研究発表



道元徹心氏による司会



楠淳證氏による龍谷大学の紹介



阿部龍一氏のコメント



会場となったハーバード大学ライシャワー日本研究所



全体写真

【文責】 龍谷大学世界仏教文化研究センターリサーチ・アシスタント 亀山隆彦